

1. CODとは

103.5cm × 73cm



2. 水生生物調査(指標生物)

103.5cm × 73cm



3. 川の生き物から水質を調べよう

103.5cm × 73cm



4. 豊稔池 水生植物を活用した水質浄化実証事業
産業等用太陽光発電フィールドテスト事業

85cm × 60cm



5.生活排水処理施設にはどんな種類があるの？

85cm × 60cm



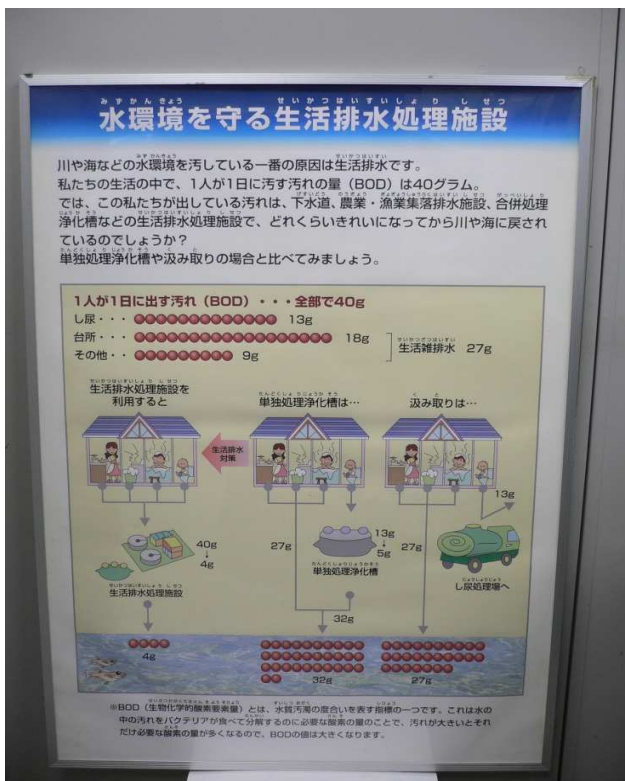
6.私たちのくらしと水環境

85cm × 60cm



7. 水環境を守る生活排水処理施設

85cm × 60cm



8. 重点整備地域の指定

85cm × 60cm



13. きれいな海をとりもどそう！
アサリが海水をきれいにするしくみ

90cm × 60cm



14. きれいな海をとりもどそう！
アサリが海水をきれいにするしくみ

90cm × 60cm



15. 干潟における生物指標
水環境(水質、底質等)の汚れの程度と指標生物

60cm × 90cm



16. アマモ場に成育する生き物たち

60cm × 90cm

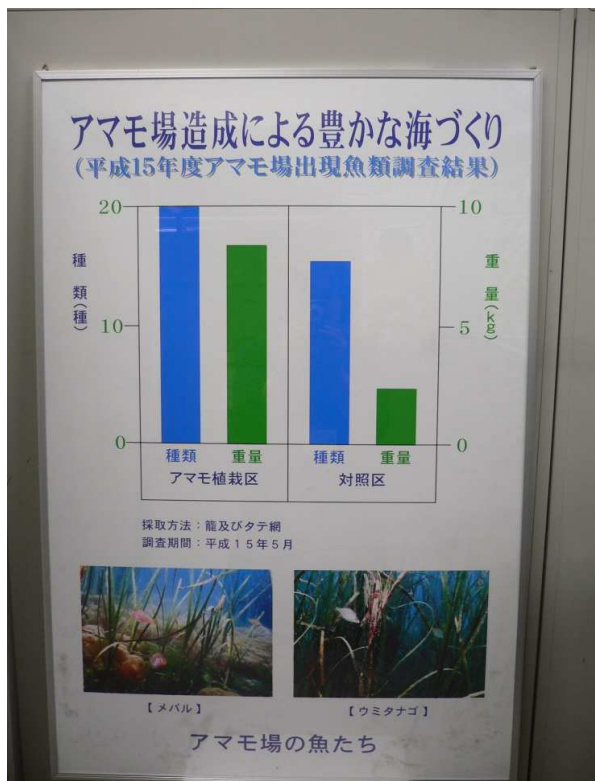


17. アマモ場造成による豊かな海づくり
(平成15年度アマモ場出現魚類調査結果)

90cm × 60cm

18. 干潟における生物指標 階級 I (きれい)

85cm × 60cm



19. 干潟における生物指標 階級Ⅱ (わりあいきれい)

85cm × 60cm



20. 干潟における生物指標 階級Ⅲ (よごれている)

85cm × 60cm



21. 干潟における生物指標 階級Ⅳ (とてもよごれている)

85cm × 60cm



22. 朝顔で光化学オキシダント調査

60cm × 90cm



23. 香川県内の化学物質の排出量は？
(平成13年度実績分)

90cm × 60cm



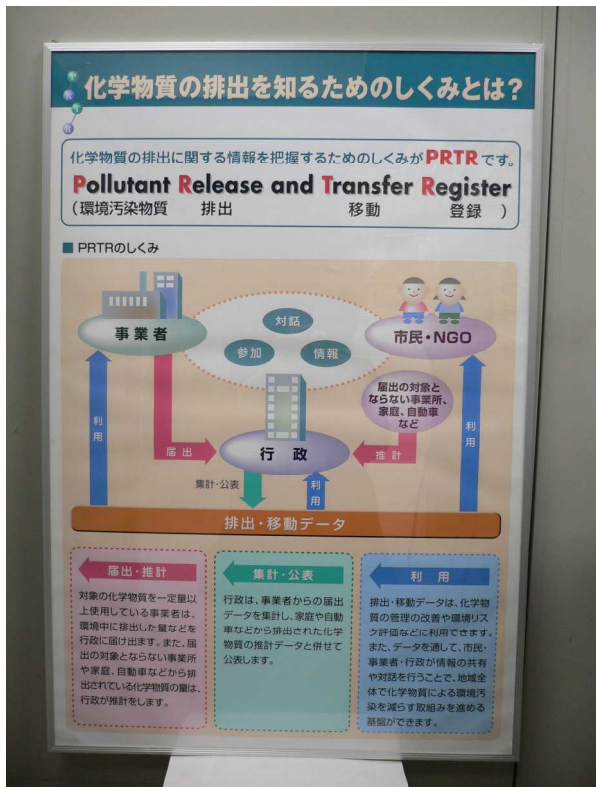
24. 身近なところにあるフロン

90cm × 60cm

名称	構成成分	オゾン層破壊係数	地球温暖化係数
CFC (クロロフルオロカーボン)	炭素、フッ素、塩素	0.6~1.0	4000~9300
HCFC (ハイドロクロロフルオロカーボン)	炭素、フッ素、塩素、水素	0.01~0.552	93~2000
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	炭素、フッ素、水素	0 (オゾン層破壊なし)	140~11700

25. 化学物質の排出を知るためのしくみとは？

90cm × 60cm



26. 海ごみってなんだろう？

85cm × 60cm

ごみのない豊かな里海に
海ごみってなんだろう？

海ごみはどこからやってくるの？

わたしたちの生活から出て、きちんと処分されなかったごみは、川から海へ流れ出て、海を漂い、海の底に沈んだり、海岸に流れついたりします。

海の底に沈んだごみ(海底ごみ)を調べると、ほとんどがわたしたちの生活から出たごみ(ペットボトルや食品袋、紙などのプラスチック)です。

海ごみの種類

- 河川ごみ
- 海岸ごみ
- 漂流ごみ
- 海底ごみ

海ごみにはどんな問題があるの？

- 生き物がすみにくくなります
- 船の故障や事故の原因になります
- 海の時計が狂ったりします
- 海の豊かさが減ります

海ごみがあると、人間も海の生き物もすみにくくなります。

海ごみを減らすために、わたしたちにできること！

- 海に傾くを持つ
- 生活から出るごみを少なくする
- 外出時のみは持ち帰る
- 身辺整理(川・道(まち)・海辺)でごみ拾いをする

参加団体募集中!!

リフレックス【香川】パートナーシップ事業
 『海ごみゼロプロジェクト』募集

香川県内各地の海ごみ回収活動の推進を目的として、海ごみゼロプロジェクトを推進しています。活動内容は、海ごみ回収、清掃活動、啓発活動などです。活動期間は、平成26年10月～平成27年3月です。活動場所は、香川県内各地の海岸です。活動内容は、海ごみ回収、清掃活動、啓発活動などです。活動期間は、平成26年10月～平成27年3月です。活動場所は、香川県内各地の海岸です。

詳しくは香川県PMPが担当しています。 | 問い合わせ先 | 香川県環境政策課

27. 海底ごみ対策

85cm × 60cm

香川県発 海域・陸域一体となった海底ごみ対策

海底ごみは、ほとんどが生活ごみ

瀬戸内海には海底ごみが13,000トン以上あると推計されています。その多くは、わたしたちの生活から出たごみです。香川県が調査した結果では、個数割合で97% (重量割合で85%)がわたしたちの生活から出たごみでした。

わたしたちの生活から出たごみの割合

紙類	1%
プラスチック製品	20%
ガラス	24%
その他	3%
ペットボトル	28%
その他金属製品	1%
その他	3%
紙木片等	1%

香川県方式の海底ごみ回収・処理システム

これまで、回収・処理の責任が明確でないなど、様々な問題のために漂っていた海底ごみの対策に、平成25年度から県・市町・事業者が協力して本格的に取り組むはじめました。

漁業者が、喜び競争等で集めた海底ごみを、プラットフォームで回収・処理するシステムで回収・処理

行政(3市町商工会)が回収・処理

行政(内務部)が全量回収し、処理費用を負担

香川県方式の海底ごみ回収・処理システムの最大の特色は、3市町だけでなく内陸部までを含め、海域・陸域一体となって、海底ごみの回収・処理に取り組むことです。これは、全国でも初めての試みです。

28. 里海ビジョン① わずか50年前から

85cm × 60cm

里海 さとうみ
 SATOUMI in KAGAWA

瀬戸内海の環境悪化は、わずか50年前から

わたしたちの祖先は、古くから瀬戸内海を愛し、その恵みを享受しながら調和を保って暮らしてきました。そのバランスが崩れたのはわずか50年前から。瀬戸内海上に大規模な工業団地など様々な施設が建設されてきた結果、水質については一定の改善が見られるものの、海水の栄養塩の循環バランスが崩れることによる赤潮の発生やリの色落ち、海ごみ、人と海の関わりの変化など、わたしたちの海は、依然として多くの課題を抱えています。

背景

1950年代後半から1960年代前半にかけて、瀬戸内海に大規模な工業団地が建設され、海水の栄養塩の循環バランスが崩れることによる赤潮の発生やリの色落ち、海ごみ、人と海の関わりの変化など、わたしたちの海は、依然として多くの課題を抱えています。

課題


1950年代後半から1960年代前半にかけて、瀬戸内海に大規模な工業団地が建設され、海水の栄養塩の循環バランスが崩れることによる赤潮の発生やリの色落ち、海ごみ、人と海の関わりの変化など、わたしたちの海は、依然として多くの課題を抱えています。


29. 里海ビジョン②

85cm × 60cm

香川の海の5つの重要課題


① 改善傾向が見られない「有機汚濁」
 富栄養化の指標である「全窒素・全りん」は、近年、環境基準を100%達成していますが、有機汚濁の指標である「COD」の達成率は低い状況です。
 【香川県の環境基準達成率(H25)】
 ・COD(有機汚濁の指標) **43%**
 (瀬戸内海全体78%、全国78%)
 ・全窒素・全りん(富栄養化の指標) **100%**
 (瀬戸内海全体93%、全国85%)

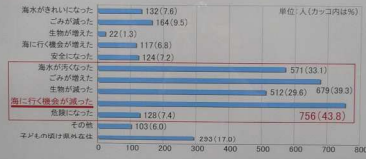
② 「栄養塩」の循環バランスの崩れ
 栄養塩(植物が育つための栄養分として必要な窒素やりんなど)の循環バランスが崩れているため、赤潮が発生する一方で、ノリの色落ちが見られています。

 正常なノリ(左)と色落ちしたノリ(右)


③ 増加傾向にあるが、依然として少ない「藻場」
 水質浄化や稚魚の生育場として重要な藻場は、沿岸域の埋立や環境悪化などにより、多くが失われました。近年、増加傾向にありますが、依然として少ない状況です。
 【藻場面積の推移(アマモ場)】

 アマモ

30. 里海ビジョン③

85cm × 60cm

④ 対応が急がれる「海ごみ」問題
 瀬戸内海の海底には**13,000t以上**のごみがあるとされており(H18国推計)、その多くは生活ごみ。香川県内の海岸には年間**754t**のごみが漂着・散乱しています(H15県推計)。

 海浜に漂着した生活ごみ

⑤ 「人と海の関わり」の希薄化
 【県民アンケートより(H25)】
 Q1. あなたが子どもの頃と比べて、香川の海はどうなつたと感じていますか？

 単位:人(カッコ内は%)
 海水がきれいになった: 132(7.6)
 ごみが減った: 164(9.5)
 海に行きやすくなった: 22(1.3)
 安全になった: 117(6.8)
 海水が汚くなった: 124(7.2)
 ごみが増えた: 571(33.1)
 生物が減った: 512(29.6) 799(39.3)
 海に行く機会が減った: 128(7.4) 756(43.8)
 その他: 103(6.0)
 そのほか: 233(17.0)

県民アンケートの結果、子どもの頃と比べて海に行く機会が減ったと答えた人が最も多く、すべての世代で同様の傾向が見られました。事実、月に1回以上海や海辺へ行く人はわずか6%。機会なしと答えた人が3割で、人と海の関わりが希薄化していることがうかがわれます。

 月に1回程度: 3%
 月に1回未満: 31%
 毎月: 11%
 毎月以上: 55%

Q2. あなたは海や海辺でのふれあいやレジャーの機会をどのくらい持つていますか？

わたしたちは、瀬戸内海とどう関わっていけばいいのでしょうか。

31. 里海ビジョン④

85cm × 60cm

里海づくりという新たな関わり方の提案

～瀬戸内海を県民みんなの「里海」に～

わたしたち一人ひとりが、海だけでなく、海につながる山・川・里(まち)を含めて、適切に関わることで、多様な生物が生息できる健全な海の状態を保ち、水産資源だけでなく景観、憩いの場、食文化、観光など多くの恵みを受容できる「人と自然が共生する持続可能な豊かな海」を目指す。里海づくりを推進します。

目指す「里海」の姿
人と自然が共生する持続可能な豊かな海

交流と賑わいのある海
 ・地域資源の活用
 ・海との関わりによる交流の促進
 ・海に関わる伝統文化の継承

「保全」と「活用」の調整

美しい海
 ・ごみのない海・海辺
 ・良好な水質・底質
 ・自然景観・文化的景観の維持

生物が多様な海
 ・生物多様性の保全
 ・生物多様性の維持
 ・生物の生息空間の確保

県民みんなが山・川・里(まち)・海に適切に関わる

32. 里海ビジョン⑤

85cm × 60cm

里海づくりのポイント

～山・川・里(まち)・海をつなげる～

人のつながり
 一人ひとりが、海とのつながりに気づき、社会全体と海とのつながりのしくみを知り、できることを実践し、そしてそれぞれの取り組みをつなげていきます。

取り組み例
 ●山: 登山の啓発、エコツアー
 ●川: 河川美化、水生生物調査
 ●里(まち): 伝統文化継承、地域観光
 ●海: 観光対策、海浜・干潟の保全・再生、食文化の伝承

人と自然が共生する持続可能な豊かな海
 つなげる: 山・川・里(まち)・海をつなげる
 やってあげる: 山・川・里(まち)・海をつなげる
 知る: 山・川・里(まち)・海をつなげる

モノのつながり
 山や田畑から流れ出る水、工場や家庭からの排水に含まれる有機物や栄養塩は、川を渡って海へ流れ、食物連鎖などによってわたしたちの暮らしに戻ってきます。
 里海の実現には、このような「モノのつながり(物質循環)」を考慮しながら、海の健全化を図る必要があります。
 ※栄養塩とは、植物が育つための栄養分として必要で、重要な元素のことです。



33. 里海ビジョン⑥

85cm × 60cm



34. 四国新聞掲載記事 H25.10.12
「里海」を考える

60cm × 43cm



35. 四国新聞掲載記事つづき H25.10.12

60cm × 43cm



36.かがわ「里海」づくりシンポジウム 高松 豊かな里海へ

85cm × 60cm

